

NASA発表の予算要求

総額	198.9(195.2)
深宇宙探査システム	45.6(42.2)
探査研究・技術	10.0(8.2)
低軌道・宇宙運用	46.2(48.5)
科学	59.0(57.3)
航空研究	6.3(6.6)
教育	0(1.0)
安全・セキュリティ	27.5(27.5)
建築及び環境	3.9(3.6)
監察総監	0.4(0.4)

(括弧内はFY2018継続予算*(単位:億ドル))

◆ FY2019のNASA予算要求総額は198.92億ドル。

◆ FY2018要求額より8億ドル増(4.2%)、FY2018年度継続予算より3.7億ドル増(1.9%)。

*FY2018歳出法が未成立のため、比較としてFY2018継続予算(FY2017歳出法承認額とほぼ同水準)が用いられている。

(参考:他機関の民事宇宙関連予算)

- ・ NOAA(NESDIS):16億ドル(FY2018継続予算比25%減)
- ・ USGS(全体):8.6億ドル(FY2018継続予算比20.2%減)

要求のポイント

- ① 有人月探査、その先の火星探査につながるミッションに注力するため、予算項目を大幅見直し
 - ◆ 「探査」→「深宇宙探査システム」に名称変更
 - ◆ 「探査研究・開発」→「発展型探査システム(AES:Advanced Exploration Systems)」に置き換え
居住モジュール、月周回プラットフォームはAES、その他は「探査研究・技術」に組み込まれた
 - ◆ 「宇宙技術」→「探査研究・技術(ERT:Exploration Research and Technology)」に置き換え
従来の「探査研究・開発」で行っていた有人研究もERTに組み込まれた。
 - ◆ 「宇宙運用」→「低軌道・宇宙運用(LEO and Space Flight Operations)」と名称変更
新たに商業LEO開発(Commercial LEO Development)を追加。
- ② Deep Space GatewayをLunar Orbital Platform-Gatewayと改称し、正式に探査ミッションとして実施。
- ③ 探査関連の予算に全体予算の半分以上の105億ドルを割り当て。ISSへの政府直接拠出をFY2025年までとし、代わりに商業LEO開発によりISS商業化を促進(商業LEO開発の促進に新規に1.5億ドルを要求)
- ④ 地球観測衛星(PACE, OCO-3, CLARREO, Pathfinder, DSCOVR, RBI)についてはキャンセル。